

2023年8月12日

「福音によって」

テサロニケの信徒への手紙一 1:1-10

竹島 敏牧師

使徒パウロは、テサロニケの教会に宛てて手紙を書き、迫害のただ中にありながら希望を持って忍耐している信徒たちを、「主に倣う者」と慰め励ましています。自分たちと同じ信仰を持つ仲間が神によって与えられている、そのような感覚は、本当に、人を根底から支えるものだと思います。

キリストが私たちに約束してくださっている事柄を一言で言うなら、救済史、救いの歴史であると言えましょう。聖書は、このキリストによる救いの歴史を証言し、かつ、救いを約束している書である、と言い切ることができます。この救済史の中で教会は創られ、そして教会は救済史を担うものとされる、その限り、教会は教会であり続けることができるのだと思います。私たち小石川白山教会もまた、救済史において神に選ばれた共同体であるということになります。私たちキリスト者が生活している教会という場が、救済史という場なのであり、教会が、すなわち私たちキリスト者が、発言しなければならない宣教の内容もまた、救済史なのでありましょう。私たちは、教会という場で救済史を生きているのです。だから、この救済史を生きる志を持ち続ける限り、どんなにこの世が罪にまみれ絶望に満ち、救いがたい状況であるかの様に見えるとしても、そして教会もまた、罪を犯すことがあったとしても、それでおしまいなのではありません。キリストからの見方がある、救済史という救いの約束がしっかりと与えられており、主にあって悔い改め、その都度、新しくされていく者たちには希望は絶えることはありません。これが福音なのです。それが、聖書が私たちに力強く語っている事なのだと思います。このキリストに出会い、捉えられて、自らの日常の具体的な罪をも悔い改め新しくされ、福音を携えて、それぞれの旅路を歩んでまいりましょう。